

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和6年12月12日
タイトル	令和6年度「疏水ネットワーク」東京研修会へ参加しました！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和6年12月5日（木）に東京都台東区東上野において開催された令和6年度「疏水ネットワーク」東京研修会へ参加しました。

疏水は農業用水のみならず生活用水などに利用し地域住民の憩いの場や動植物の生育空間となるなど多面的機能を発揮しており、国民共有の貴重な財産であることから広く国民に周知し疏水を将来に引き継いでいくことができるよう研修、情報交換等を行うことを目的に開催されています。

今回は、講演後、東京都美術館にて「未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展2024」の展示を視察し交流会が開催されました。

研修は、いまだきの主要テーマとして「土地改良法の改正と農業水利施設等の保全管理」、講演として「BUZZMAFF “だいちとみどりの探検隊” の取組」、「農業水利施設の保全管理の最前線」、「機能診断のスマート化を目指して—農研機構の取組みを例として—」、「ICTを活用した圃場水管理システムによる営農効果と広域水管理との連携」、「AI等の活用による農業用水門の遠隔監視・制御システムの実用化に向けて」をお聞きしました。



通り耕作や農地が点在することにより水管理が難しく水量が不足するようになったことや用水と排水が連携した地域の水門ゲートの操作や排水管理の困難な状況など共感する問題が多く、今後ICT化する場合の事業メニューも紹介され大変参考になりました。

研修では、疏水などの土地改良施設の歴史や技術をわかりやすく伝える事の必要性や水管理が従来の農家の経験や勘に頼るやり方では立ち行かなくなりICTを活用し大幅な労力の軽減を図った事例、近年雨の降り方の変化に伴う利水と治水のバランスなど多岐にわたり具体的なお話をお聞きすることができました。

続いて、東京都美術館で開催されている「未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展2024」を視察しました。この絵画展は全国から約3,000点の応募の中から賞を受賞された約400点の作品が展示されており、子ども達の農業や自然に対する思いが伝わる素晴らしい作品にふれ、疏水などの土地改良施設を守り農業の営みを次世代の子ども達に引き継がなければならないと強く思いました。

